

ちょっと話は変わりますが、一般質問の初日の日、陶山議員のほうも話をされましたけども、私も子どもを子育て、対馬高校の寮の話をされたんですけども、あの話実は私も同じタイミングで同じ話を聞きまして、本当に今の対馬高校の現状、対馬高校、子供たちに関わる場所、いろんな問題がある、先ほどの東議員の話もありました。いろんなこと、問題があります。そこには、行政側からするとしっかりと予算との優先順位ですと、それも当然分かりますので、そういう中で、やっぱり行政の仕事として何が一番大事なところであり、私たち議員として本当に何が必要なのかということは緊張感を持ってという言葉をちょっと最初に話をさせていただいたんですけども、そういう中で本当に何が正しく何が今優先順位として正しいのかということをしつかりと議論しながら、ここで対馬市民のためということをここに在る議員の方たちみんなそれを背負ってここに在ると思いますので、そういうものをしっかりとここで協議ができる関係をしっかりと保ちながら、よりよくするための対馬市をつくっていくための場ということを認識して、私としてもこの4年間、基本的には4年間あると思いますので、4年間を頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

ということで私の一般質問を終わらせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、佐伯達也君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 昼食休憩とします。再開は午後1時5分からとします。

午前11時53分休憩

午後1時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 皆さん、こんにちは。公明の黒田昭雄でございます。

質問に入ります前に一言、先の対馬市議会議員一般選挙におきましては多くの皆様から御支持をいただき、当選することができました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

この選挙、3位でありましたけれども、大変厳しい選挙を感じました。傍聴、今、お一人いらっしゃいますけれども、新人の皆様には多くの傍聴が来ていただいております。それぐらい新人にものすごい支持が集まった、そういう選挙であったと思います。

市長もおっしゃいましたけれども、議会を変えてほしいと、それは私も強く感じたところでありまして、与えられた4年間しっかりと頑張っていきたいと思っています。

それでは、通告に従いまして、市政一般質問をさせていただきます。3点質問をさせていただきますけれども、1点目と2点目については選挙公約と言ったらちょっと恥ずかしいんですけれ

ども、選挙遊説中、私が訴えてまいった2点でございます。3点目は、また改めて申し上げますけれども、1点目から最初に申し上げます。

带状疱疹ワクチンの定期接種化についてでございます。

ありがたいことに、今年度の4月から带状疱疹ワクチンの定期接種が始まりました。接種費用に対して、対象者のみに助成されることになり、約半額弱の個人負担で予防接種が受けられることになりました。

ただ、带状疱疹ワクチンはB類ということで、接種に対する努力義務や勧奨がありません。ということで、対馬市は対象者に個別に連絡はしないという方針のようであります。

私は、せっかく定期接種を始めても連絡がなければ、自分が対象者だと気づかない人も多いと思います。認知度を上げるためにも、本市が対象者に個別連絡をするべきと考えますがいかがでしょうか。

2点目につきましては、1次産業の担い手確保のための仕組みづくりについてでございます。

対馬の豊かな自然の恵みを生かした1次産業を副業としてできるように、仕組みづくりをつくって環境を整えられないかということであります。

ちょっと地元の話で恐縮ですが、私のふるさと高浜は海の恵みによって地域経済を支えてきたと思っています。あふれるほどの海の恵みが、私たちを幼少期から育んでくれました。ヒジキを取ればお年玉みたいなお小遣いをもらいました。そんなこともだんだんなくなりましたが、まだまだ海の恵みはあります。

それは、人口が減ると働く人も減るからで、漁場も増えるし、農林業でいうと田畑も増える、ほだ場も増えてくる。副業レベルの収入であれば、1次産業ができる環境にあります。できる条件がそろっているということです。

今、本市は1次産業を本業として別の仕事を副業できる支援制度を設けていますが、私は逆に1次産業を副業に、または1次産業同士でもいいのではないかと考えています。

ただ、1次産業は技術が要りますので、その技術を磨ける仕組みづくりや地域づくりが必要となります。

この物価高騰の中、少しでも収入が増えれば生活が楽になるし、それと併せて対馬の自然の恵みを次の世代につなげていかなければならないと考えています。

実家が1次産業の家であったり、バイタリティーのある移住者や元気のある市の職員上がりの方々など、既に1次産業を副業している方々はいっぱいらっしゃいますが、まだまだ普通の人々がチャレンジできるような仕組みづくりができないかということでもあります。

市長の中長期的な構想をお伺いします。

3番目につきましては、食品ロスの削減についてであります。

コロナの影響から最近宴会をすることが少なくなってきましたが、これからだんだんと大きな宴会が復活してくるものと考えています。特に男性ばかりの宴会のときがそうなんですけれども、乾杯をしたら時間を置かずお酒のやり取りが始まります。そして、お開きを迎えたときにはたくさんさんの料理が残っていて、いつももったいないなと感じるところです。

そこで、宴会などで大量の食べ残しを減らすための対策として、宴会の最初の30分と終わりの10分は食事に集中する3010運動というものがあります。

この3010運動は、長野県松本市が発祥の地といわれておりまして、環境省もいいことだということで全国の自治体に推奨をして積極的に取り組んでいる自治体もあります。

なぜ、このテーマを取り上げたのか。何年か前になりますけれども、厚生常任委員会でこの3010運動に取り組んでみたらどうかという提言をしたことがありまして、ずっと時が流れていきまして、そしたらいつの間にか3010運動が対馬市のホームページに掲載していました。よかったとは思ったんですけれども、市が具体的にこうやっていきますという情報発信が全くありませんでしたので取り上げさせていただきました。

本市として、具体的にどのように取り組んでいくのかお伺いをいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 黒田議員の質問にお答えいたします。

初めに、带状疱疹ワクチンの定期接種化についてでございますが、带状疱疹とは、多くの方が子供のときに感染する水疱瘡のウイルスが原因で起こります。水疱瘡が治った後も成人の90%以上はウイルスが体内に潜伏しており、加齢や疲労、ストレスなどで免疫機能が低下するとウイルスが活性化し、神経を伝わり、皮膚に到着して痛みを伴う発疹を生じる病気でございます。特に50歳代からの発症率が高くなり、80歳までに3人に1人が带状疱疹を発症するといわれています。

带状疱疹ワクチン接種につきましては、本年4月から一部助成を実施しております。令和7年5月末現在で既に48の方が接種されております。内訳は、生ワクチン接種者9人、不活化ワクチン接種者39人です。接種率は2.1%となっております。

带状疱疹ワクチン接種の対象者への個別通知の実施についてでございますが、本市では、区長への依頼による各世帯への回覧、広報紙やホームページ、対馬市CATV、また、市内各医療機関へのポスター掲示を依頼し、対象者の方へ周知しておりました。

当初、本市においては努力義務のないB類疾病であるため個別通知はしないようにしておりましたが、個人の発病や重症化予防のためには、その実施が効果的であると考えられます。つきましては、県内各自治体の取組を参考にしながら、個別通知の実施に向けて準備を進めてまいりま

す。

次に、1次産業の担い手確保のための仕組みづくりについてでございますが、現在、1次産業の担い手確保のために行っております施策といたしまして、まず、農林業分野におきましては、農業次世代人材投資事業により就農直後の経営確立に要する経費として3年間支援しており、現在3人の方に活用いただいております。

また、水産業分野におきましては、漁業担い手育成と定着促進を図るため、漁業と漁村を支える人づくり事業と対馬市漁業あととり育成事業の2つの制度により最長2年間の支援を行っており、これまでに101人の方に活用いただいております。

次に、対馬市第1次産業プラス副業支援事業でございますが、対象事業としては、議員御指摘のとおり1次産業を本業として別の仕事を副業とする場合のほか、1次産業プラス1次産業の場合も対象としております。しかしながら、同事業の中で1次産業を副業とできるのはUIターン者のみに限定しており、市民にまでは拡大できておりません。

本市において、今後の1次産業の維持を図っていくためには、議員御指摘のとおり、1次産業を本業とすることと併せ、副業として取り組んでいただくことで市民の所得向上はもとより、農林水産業の生産量の増加につながるものと考えます。

よって、1次産業を主とした後継者の育成につきましては、従来からの事業を強力に推進していくとともに、1次産業を副業とする方への支援につきましては対馬市第1次産業プラス副業支援事業の本年度以降の事業ニーズを把握した上で条件等を精査しながら拡充を図ってまいります。

最後に、食品ロスの削減についてでございますが、初めに、食品ロスとはまだ食べられるのに廃棄される食品のことであり、日本では年間472万トンの食品ロスが発生しております。これは1人当たりおにぎり1個分の食べ物が毎日無駄になっている計算となります。そして、この食品ロスに対処するために3010運動というものがありますが、これは宴会などの場面において最初の30分と最後の10分は常に席について食事を楽しみ、食品ロスを防ごうという全国的な取組でございます。

本市におきましても食品ロスは重要な課題であり、地球環境への負担軽減、資源の有効活用、そして経済的損失の抑制という観点から削減に向けた取組を強化していく必要があると認識しております。家庭や事業所から出る可燃ごみの中にはまだ食べられるにも関わらず廃棄される食品が一定量存在しております。また、私も出席しております懇親会や地域の宴席の場におきましても飲食物等の食べ残しが多く存在しているのも事実であります。

本市では、食品の無駄を減らすだけでなく、資源として再利用することが有効であるため、焼却量やCO<sub>2</sub>排出削減の目的で生ごみ回収事業を行っておりますが、議員がおっしゃられますように生ごみが発生する前の食品ロス削減への取組も非常に重要であると思っております。

今後は、飲食店や宿泊施設と連携を図りながら3010運動をはじめ、食品ロス削減の趣旨を広報やホームページ、SNS等による情報発信だけでなく、チラシの掲示や呼びかけ等により広く周知し、様々な会合や地域の宴席などにおいてこの運動の実践を呼びかけてまいります。

また、昨今、SDGsの観点からも食品ロスへの関心が高まっていることから、学校教育や地域イベント等の機会を活用し、子供から大人まで幅広い世帯への意識啓発を進めることで市民一人一人が食品ロス削減の重要性を理解し、行動につなげていただけるよう取組を推進してまいります。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 4期16年、議員をやってまいりましたが、ここまで前向きな答弁をいただいたのは初めてであります。ありがとうございます。

まず、1番目について、带状疱疹ワクチンについてでありますけれども、準備を進めていくという御答弁をいただきました。

1つ、私も前回ですか、国や県の自治体などの動向を注視しながら検討を重ねていくというそういう答弁をもらったら普通しないというそういう発言ということは長くやっていれば分かるんですけども、今回、他の自治体を带状疱疹ワクチンとその前の肺炎球菌ワクチンについて調べてみたんですけども、始めインターネットで見た限りは県下21市町は半分ぐらいの自治体が個別通知をしていたんですけども、書類上です。ちょっとこれおかしいなと思ひまして各自治体にそのことだけ尋ねたら、意外や意外、最初は通知する気はなかったんですけども、やっぱりよくよく考えたら通知するようにしましたとかいうそういう自治体はかなり多くて、調べますと対馬市の対応と一緒に松浦市だけだったんです。あとは肺炎球菌ワクチンも带状疱疹ワクチンともに個別連絡をしていました。他の自治体はこういう動向ですので、ぜひそれに追従するという形は、またおかしいですけども、やっぱりほかの自治体から聞いても今回も不活化ワクチンが接種率が高かったということですけども、やっぱりこれは10年経っても7割以上の予防効果があるということで、やっぱりこの肺炎球菌も含めましてこの2つは非常に予防効果が高いワクチンだと、もう一つが費用対効果です。費用対効果が非常に高いという、要するにワクチンで始め先行投資をするんでしょうけれども、ワクチンを打たなかったとき、例えば带状疱疹にかかったらその後の治療が高いという、高いので安いワクチンを最初に先行投資をするというのが費用対効果が高いというんですけれども、この2点が非常に高いということでしたので、ほかの自治体のうち21自治体がやっぱりしていたということだったと思います。

市長も準備を進めていくという発言をされましたのでそれを信用いたしまして、この件は終わりたいと思います。

次に、2番をちょっと飛び越えて3番目です。

これについても前向きな答弁でしたので、それ以上話すことがないと言ったらあれなんですけれども、ちょっと1点だけお尋ねしますけれども、4Rというのがありますよね、4Rです。ごみを減らすという4R。今やっているのが生ごみ回収事業ということですよね。要するに、生ごみから堆肥に変えるという、いわゆるリサイクルですよね。私が今回提案したのは3010運動です。これはそもそも生ごみになるものを減らそうというリデュースと言いますけれども、これが4Rのうちの優先順位としては今やっている生ごみ回収事業より優先順位が高いということになりますけれども、だから市長も3010運動については前向きなんですね。そういう話でしたので、これも質問してもあれでしょうけども、1点ちょっと聞きます。

この長崎県食品ロス削減推進計画というのは、これ県が策定をしてその中で市の義務というか責務というか、それについて、市は地域の特性に応じた施策を実施すると市の責務を書いてあるんですけれども、今後、市が、市長がこういうふうにやりますという情報発信をしたわけですが、県とどういうふうに関連してやっていくのか、それを教えてください。

○議長（春田 新一君） 未来環境部長、三原立也君。

○未来環境部長（三原 立也君） 黒田議員の御質問にお答えさせていただきます。

市といたしましても、今、SDGsの未来都市宣言をいたしておりまして、様々な島内での循環経済、そういうものを目指している中でやはり食品ロス関係も含めて取組は強化させていただきたいと思っておりますけれども、市単独ではなかなかこういう取組は難しいと思っておりますので、今回3010運動の件も再度、黒田議員のほうから御指摘もいただきましたし、今後、県のほうとも食品ロス対策も含めて連携を強めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） この3010運動、その食品ロスの活動の中のほんの一部だと思うんですけれども、身近にできる取組でもありますし、また、市民と事業者が一体となってやるという、やはりそのしなやかでいけなない対策の波及効果にもなるのでこれは取組をさっきの御答弁のとおり進めていただきたいと思います。

最後に、2番目の1次産業を副業にというこの件についてですけれども、市長のほうが、今、1次産業プラスほかの別の仕事の副業ということで、UIターンを限定しての事業でありますけれども、それを今年度の実績を精査をして拡充を図っていく方向性だということで、これも前向きな答弁でしたのでありがたいと思います。

1つこの件について現状というか認識をしておられると思うんですけれども、10年経ったら多分漁業の方も致命的に減少すると思うんですが、多分、農林業のほうはそれ以上、輪を掛けて

激減するであろうと思います。今、裾野を広げていけば、その中でやっぱり刺激をされて本業にという、ある意味、農協・漁協を助けきるような事業者に成長するという、そういう可能性も秘めていると思うんですけれども、市長は拡充を図るということでしたけれども、この10年ですけれども、この1、2年が吉野議員もおっしゃっていましたが、今手を打たんと10年先がとんでもないことになるので、その拡充を図るという御答弁をいただきましたけれども、かなりの力をかけてこの1、2年は力を投入していただきたいと思うんですけれども、そこら辺の現状認識はどう考えていらっしゃるでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 条件等を精査しながら拡充してまいりたいという答弁をいたしました。ただ、ちょっとこのことについては、もちろん拡充はやっていきたいと思っておりますけれども、ただ、そこに一部のやはり条件と申しましょうか、制限と申しましょうか、そういったところは設けていく必要があるんじゃないかなということは担当部局のほうとも話しております。と申しますのが、例えば漁業等におきましては、今現在、別の本業をしている方が趣味の魚釣りをしたいということで船を買いたい、イカ釣り用のランプをつけたい、それでこの事業に申込みをしたら補助が頂けるんじゃないかというようなことになりますとそこはちょっとまた若干違うのかなと。そこではやはり釣った魚等を漁協等に渡したりするような、やはり何らかの準組合員的な行為をしてもらうようなことが一つの条件に当てはめていかないと、この事業そのものが失敗するのではないかなというふうに考えております。そういうことでいろんなことを皆さんと職員とも論議しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 準組合員的な行為ですね。要は漁師といえば箱立てをちゃんと出荷するということですね。それは当たり前条件として入れなきゃいけない話だと思います。分かりました。

今回、私の尊敬する漁師の方がこういう言葉を言って、私もああそうだと思ったんですけど、せっかくこの対馬のいっぱいある海の恵み、それを頂けるといのは非常に幸せであるし、人生が楽しいという、そういうお話を、私も漁師をしていますけども自分の指針というか、これで私も楽しい人生をしていきたいなと思いますけども、こういうふうに1次産業の裾野を広げるというのは、過去、先人たちが築いてこられた、そういった対馬の自然の恵みですか、これをやっぱりほかの業種は業種で大切とは分かりますけれども、せっかくこの対馬に生まれて自然の恵みを受けきって、次の世代につなげていけるような、そういう役割を果たしていきたいと思います。

ちょっといい御返事を頂きましたので、もう早めに終わります。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、黒田昭雄君の質問は終わりました。